

## 後期始業式 式辞

青森東高校が今年度目指しているのはたった一つ「主体性の涵養」です。

「知識や学力」と「主体性」は掛け算の関係だと私は思っています。どちらかが100でも、どちらかがゼロなら、答えはゼロです。主体性が100あっても、知識や学力がなければゼロですが、知識が100でも、何のためにそれを使うのか自ら考えられなければ、やはり答えはゼロです。学力と主体性どちらの力もしっかりとつけることが、今の時代、求められています。そして、どちらも身につければ、掛け算ですから相乗効果で強い力となります。

「主体性」とは「自分で考え、選び、責任をとる力」のことだと私は思っています。

私は20代後半の2年間を青年海外協力隊員として、発展途上国で過ごしました。生徒の半分が裸足で登校するような、小さく、貧しい国の高校で日本語を教えました。

「将来何になりたいの?」と生徒に聞くと、男子の8割以上の答えは同じでした。「ソルジャー」です。大学もない国でした。安定した現金収入がある数少ない仕事が当時はソルジャーでした。「豊かさ」は選べることだ。ということにその時気がつきました。本当に貧しい国は、今日着る服も、食べるものも、まして自分の職業も、選ぶことはできません。そして、そういう国はまだまだ世界には沢山あります。「主体的な選択」の機会すら持たない人たちがいます。

多くの選択肢が用意されていること。勉強だけではない沢山の体験ができること。挑戦できる環境があることは、決して当たり前ではないことを知ってください。青森東高校は明らかに恵まれた学校です。恵まれた学校で学ぶ者の責任を果たしてください。苦しくても「主体的な選択」をする権利を手放さないでください。

後期が始まります。どうか時々、自分に問うてみてください。流されていないか。自分の頭でなぜ学ぶのか、どう学ぶのかを考えているか。自分で選んだか。そんな、日々の問いや、小さな選択の積み重ねが、やがて主体的な進路選択につながり、それが「主体的に自分の人生を生きる力」を作っていくのだと思います。

我々教員も、全ての教育活動で「主体性の育成」に取り組んでいきます。皆さんたちの力を信じて、機会を与え、失敗を許容します。我々自身も自ら問いながら、考え、失敗を怖れず、挑戦していきます。

もう一度繰り返します。青森東高校は本気で「生徒の主体性の涵養」に取り組んでいます。

後期、またみんなで精一杯頑張っていきましょう。